

参加者募集

いわきの海と魚を知ろう いわきサイエンスカフェ@海洋大ライブラリ いわき市四倉のホッキ漁業

主催：東京海洋大学 江戸前ESD協議会、東京海洋大学 附属図書館、
東京海洋大学 産学・地域連携推進機構海洋リテラシー部門

共催：いわき市漁業協同組合

■期日：2012年11月3日(土)

13時 開場、13時30分～16時30分（予定）

■場所：東京海洋大学（品川キャンパス）
附属図書館1階ホール

■話題提供

- ➡ 福島県の水産物の放射性物質モニタリング結果について
水野 拓治 福島県水産試験場・水産資源部長
- ➡ 福島県のホッキ資源について
五十嵐 敏 福島県水産試験場・場長
- ➡ いわき市漁協四倉支所のホッキ漁業について
佐藤 芳紀 いわき市漁業協同組合／四倉ホッキ組合・組合長

■参加費：無料

■定員：30名（18歳以上）

■お申込みは 電子メールまたはFAXでお願いします。

電子メール to-joho@o.kaiyodai.ac.jp

FAX 03-5463-0445

- ・当日は、東京海洋大学祭（海鷹祭）が開催されています。
- ・休憩時に附属図書館の蔵書の中から福島県の漁業に関する貴重な本の紹介と解説（岩松浩子 附属図書館）、いわきのサンマの試食をおこないます。

いわきの海と魚を知ろう

いわきサイエンスカフェ@海洋大ライブラリ

いわき市四倉のホッキ漁業

福島原発事故で放出された放射性物質が水産物から検出されたことで、魚食の安全性に対する不安と議論は高まりました。しかし、そもそも福島で何の漁業がどのように営まれていたのか、また、漁業者の方々が今、どのような思いでいらっしゃるのかについて、都会の消費者である私たちが知る機会、ほとんどありません。

このサイエンスカフェでは、福島海と魚について漁業関係者と研究者からお話を聞き、参加した全員で、人が海にダイナミックに関わる「漁業」について考えたいと思います。

今回は、福島県いわき市四倉（よつくら）でホッキ漁を営まれている漁業者の方にその漁業の工夫を、また、水産資源管理の研究者の方に福島県のホッキ資源について語っていただきます。さらに、3.11以来、海洋環境と水産物についての放射能モニタリングを毎週実施し、膨大なデータを蓄積している福島県水産試験場からも現状についてご報告いただきます。

お申込みは、電子メール／FAXでお願いします。

🐟 電子メール to-joho@o.kaiyodai.ac.jp

🐟 FAX 03-5463-0445

- 東京海洋大学・品川キャンパス（東京都港区港南4-5-7）へのアクセスは右図をご覧ください。
- 交通手段
 - JR線・京浜急行線 品川駅港南口（東口）から徒歩約10分
 - 東京モノレール・りんかい線天王洲アイル駅から「ふれあい橋」を渡り正門まで約20分
- 都合により場所と内容が変更になる場合があります。



いわきの海と魚を語ろう—いわきサイエンスカフェは、3.11以降、きびしい状況に置かれている福島県いわき市の水産業が復興に向けて踏み出していくために、海洋環境・生態系、水産業、流通などについての情報を共有し、これからの海と魚と放射能についてともに考えていこうとする場です。2011年11月以来、毎月おおむね第3土曜日に、福島県水産会館（いわき市）で開催されています。毎回、福島県水産試験場による水産物の放射性物質モニタリング結果とともに、河川・海洋環境における放射性物質の分布状況、流通・市場からの視点や取り組み、食品中の放射性物質の基準設定の考え方などについて、最新の情報を専門家にお話しいただいています。

いわきサイエンスカフェは、いわき市漁業協同組合などの水産業関係団体、福島県の行政・研究機関、アクアマリンふくしまなどの研究教育機関、東京海洋大学が運営にかかわり、いわき市農林水産部水産振興室が事務局をつとめています。詳しくは、いわき市のHP

<http://www.city.iwaki.fukushima.jp/bukyoku/noseisuisanbu/suisanshinko/014657.html> をご覧ください。今回は東京海洋大学附属図書館に場所を移して開催します。